

(別添3)

【嘉手納町】

校務 DX 計画

はじめに

嘉手納町教育委員会は、文部科学省が推進する GIGA スクール構想を踏まえ、教職員の働き方改革と学校教育の質向上を目指し、校務のデジタル化を積極的に進めてまいりました。本計画書は、文部科学省の示す計画策定要領に基づき、現状における校務 DX の取り組みと今後の更なる推進に向けた計画を具体的に示すものです。

1. 現状における校務 DX の取り組み

嘉手納町は、嘉手納小学校、屋良小学校、嘉手納中学校の3校からなる、児童生徒数約1,400名の町です。令和元年度より校務のデジタル化に着手し、現在では以下の取り組みが定着しています。

- ・ ICT 環境の整備：全教職員に1人1台端末を整備し、校務支援システムとグループウェアを導入しました。これにより、事務処理の効率化と情報共有の円滑化を図っています。
- ・ 校内研修・会議のオンライン化：職員研修や会議は、必要に応じてオンラインで実施し、ペーパーレス化を推進しています。これにより、移動時間や紙資源の削減に繋がり、教職員の負担軽減に貢献します。
- ・ 保護者とのコミュニケーションのデジタル化：欠席連絡は Google foams、学校から保護者への連絡は tetoru を活用し、情報伝達を円滑に行っています。
- ・ 外部講師研修のオンライン化：外部講師による研修もオンラインで実施することで、移動にかかる費用や時間の削減、より多くの研修機会の提供を実現しています。
- ・ 押印の省略：出勤簿への押印廃止は取り組み済みです。その他は未だ達成していない状況です。
- ・ FAX の廃止：ほとんどの連絡をメールで行うことで、FAX の使用を最小限に抑え、ペーパーレス化に貢献しています。

2. 今後の校務 DX 推進に向けた計画

2.1 更なる業務効率化とペーパーレス化の推進

- ・ 校務支援システムの活用深化：校務支援システムの機能を最大限に活用し、事務処理の自動化、データの一元管理、業務フローの改善を推進します。
- ・ クラウドサービスの積極的な活用：文書作成、データ共有、スケジュール管理などにクラウドサービスを導入し、場所を選ばない働き方を実現します。
- ・ 電子決裁システムの導入：従来の紙ベースの決裁を電子化し、決裁にかかる時間と

労力を削減します。

- ・ ペーパーレス化の徹底：校内における紙の使用量を削減するため、可能な限りデジタル化を進めます。

2.2 教職員の ICT 活用能力の向上

- ・ 研修の充実：校務 DX に関する研修を定期的実施し、教職員の ICT スキル向上を図ります。特に、校務支援システムやクラウドサービスの活用方法、情報セキュリティに関する研修を重点的に行います。
- ・ ICT 支援員の配置：ICT に関する専門知識を持つ ICT 支援員を配置し、教職員の ICT 活用をサポートします。

2.3 セキュリティ対策の強化

- ・ セキュリティポリシーの策定：校務 DX を安全に推進するため、教育情報セキュリティポリシーを策定し、全教職員に周知徹底します。
- ・ アクセス権限の管理：校務支援システムやクラウドサービスへのアクセス権限を適切に管理し、情報漏えいを防止します。
- ・ セキュリティ研修の実施：教職員に対し、定期的にセキュリティ研修を実施し、情報セキュリティ意識の向上を図ります。

2.4 保護者・地域との連携強化

- ・ オンラインによる情報提供：学校から保護者への情報提供をオンライン化し、迅速かつ正確な情報伝達を実現します。
- ・ 双方向コミュニケーションの充実：保護者からの意見や要望をオンラインで収集し、学校運営に反映することで、学校と保護者間の信頼関係を構築します。

3. リーディング DX スクールとしての役割

本町は、令和 6 年度より文部科学省のリーディング DX スクールに指定されています。この役割を積極的に果たし、先進的な校務 DX の取り組みを推進するとともに、その成果を他の自治体に発信することで、全国の学校における校務 DX の推進に貢献していきます。

4. 推進体制

校務 DX を効果的に推進するため、教育委員会内に「校務 DX 推進委員会」を設置します。推進委員会は、教育長を委員長とし、教育委員会事務局、各学校の校長等で構成されます。推進委員会は、計画の進捗状況の確認、課題の解決、関係機関との連携などを行います。

おわりに

嘉手納町教育委員会は、校務 DX を推進することで、教職員の働き方改革を実現し、子どもたち一人ひとりに質の高い教育を提供できるよう、全力を挙げて取り組んでまいります。